

プリセクター **SX-3** 取扱説明書

¥14,300



SX-3は、受信機とアンテナとの間に接続する受信用アンプです。

内部のFETアンプと同調回路の働きで、微弱な電波を増幅して受信感度をアップし、スーパー受信機のイメージ妨害等が防げます。

1. 定 格

周波数範囲	3~30MHz (3バンド)
最大利得	15dB以上
使用半導体	3FET, 7Di (LED含ム)
アッテネーター	-10dB
入力インピーダンス	50Ω
出力	50Ω (LOW) 1KΩ (HIGH)
送信時耐入力	100W (CW)
スタンバイ方式	リモート方式 (REC時リレーON)
電 源	AC-100V (50, 60Hz)
寸 法	(W) 195× (H) 62× (D) 152 mm
重 量	1.4Kg

2 付属品

- (1) BCL ハイインピーダンス出力用接続コード。
(クリップ付赤黒平行コード 50cm)
- (2) アマチュア無線スタンバイ用接続コード。
(赤黒平行コード 1m)
- (3) 出力インピーダンス切り換え用接続コード。
(全長6cm コード 2本)
- (4) 取扱説明書。

◎本機は、BCL及びHAM（アマチュア無線）の両方に使えるようになっていますが、用途によって後面のターミナル端子の接続が違いますから御注意下さい。

3. BCL用に使う時

BCLラジオ及び受信機は、機種によって受信機のアンテナ入力インピーダンスが50~75Ωの(Low)ローインピーダンスであったり、1KΩ前後の(High)ハイインピーダンスであったりしますから、使われる受信機によってSX-3の出力(OUT)端子の接続が違います。

受信機のアンテナ入力インピーダンスは、受信機の説明書の定格に書かれていますから参考にして下さい。もし不明の時は、ラジオのメーカーに問い合わせればインピーダンスのハイ、ローについて教えてもらえるはずです。

一般的には、スカイセンサーやクーガー等のプラスチックケース入りのトランジスターラジオ類は、ハイインピーダンスで、通信型タイプの受信機は、50~75Ωのローインピーダンスです。

(1)ハイインピーダンスラジオへの接続。

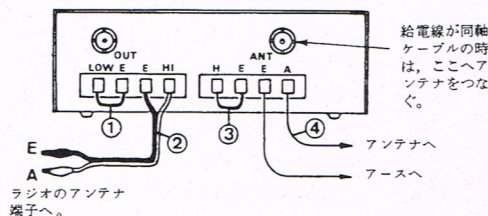
①図-1のように、付属のコード（全長約6cm）を後面ターミナルOUTのLOWとEにつなぎます。

②次に付属のクリップ付赤黒コード（全長50cm）をHIとEにつなぎ、反対側の末端をラジオの外部アンテナ端子へつなぎます。（赤…ANT 黒…アース）

③REMOTE端子のHとEを、もう一本の付属コード（全長約6cm）でつないで内部のリレーを動かして受信状態になるようにします。

④アンテナをANT端子のA又は同軸コネクターへつなげば終了です。アースEは、必要に応じて使います。

図-1



(2)ローインピーダンスラジオへの接続。

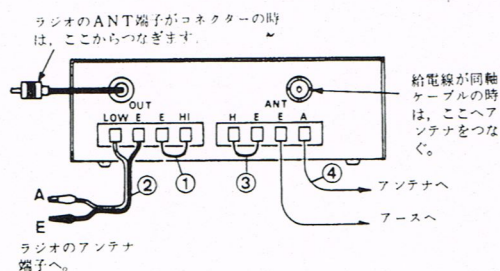
①図-2のように、付属のコード（全長約6cm）を後面ターミナルOUTのHIとEにつなぎます。

②次に付属のクリップ付赤黒コード（全長50cm）をLOWとEにつなぎ、反対側の末端をラジオの外部アンテナ端子へつなぎます。（赤…ANT 黒…アース）SX-3からの出力を同軸ケーブルでラジオへつなぎたい時は、赤黒クリップ付コードを使わずに、同軸コネクタでSX-3のOUT側コネクタとラジオのANT端子を接続すれば、前述のLOWとEにつながなくてもかまいません。

③REMOTE端子のHとEを付属コードでつなぎ、内部のリレーを動かして受信状態にします。

④アンテナをANT端子のA又は同軸コネクタ（ANT）へつなぎ、アースEは必要に応じてつなげば接続は終了です。

図-2



(3)各部の操作。

①電源SWと感度調整のつまみです。右へ回すと電源が入り、緑色のRECモニター⑤が点灯して、受信状態であることを知らせます。（MAX位置で使用）

②希望する周波数が含まれるバンドへ、BANDつまみを合わせます。（3~30MHz帯を3バンドに分離）

③チューニングつまみを回して最大感度にします。（ラジオが一番良く聞こえるように合わせ。）

④アッテネータースイッチ（ATT）は通常は、OFFにして使い極端に強い局を受信する時には、スイッチノブを上によれば、電波が-10dB弱くなります。前述の①RFつまみは、通常右いっぱい（MAX）で使いますが、ATTと合わせて左方向へ回すと、さら

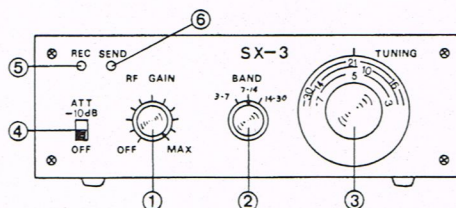
に電波が弱くなります。

⑤RECモニターは、受信状態で点灯します。

⑥SENDモニターは、内部の送受切り換えリレーが送信状態（スルー）になると赤色に点灯します。

このモニターは、BCLで受信専用にする時は点灯しません。

図-3

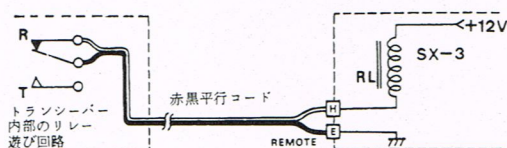


4. HAMトランシーバーとの接続

(1)後面ターミナルOUTのHIとEを付属のコードで接続（ショート）します。（図-2参照）

(2)REMOTE端子へ付属の全長1m赤黒平行コードの赤をHへ黒をEにつなぎます。この線は、本機を送信（スルー）受信（アンプ）に切り換えるための物です。よって線の反対側の末端は、トランシーバーの送受切り換えリレー回路に配線して下さい。受信状態では、赤黒をショート、送信状態ではオープンになるよう接続します。（SX-3内部リレーは、12Vがかかっておりリレーコイルの反対側をアースすると動作する回路になっております。）トランシーバー内でのリレー遊び端子は、普通ACC又はREMOTE回路としてトランシーバー後面シャーシにありますので、トランシーバーの説明書を参照下さい。

図-4



(3)本機の出力は、後面のOUTコネクタから同軸ケーブルでトランシーバーのANT端子へつなぎます。

(4)アンテナを本機のANTコネクタにつなげば終了です。つまみ操作は、前述の図-3を参照下さい。

取扱店



三ツ市通信株式会社

東京都町田市森野2-8-6
〒194 TEL 0427(23)1049

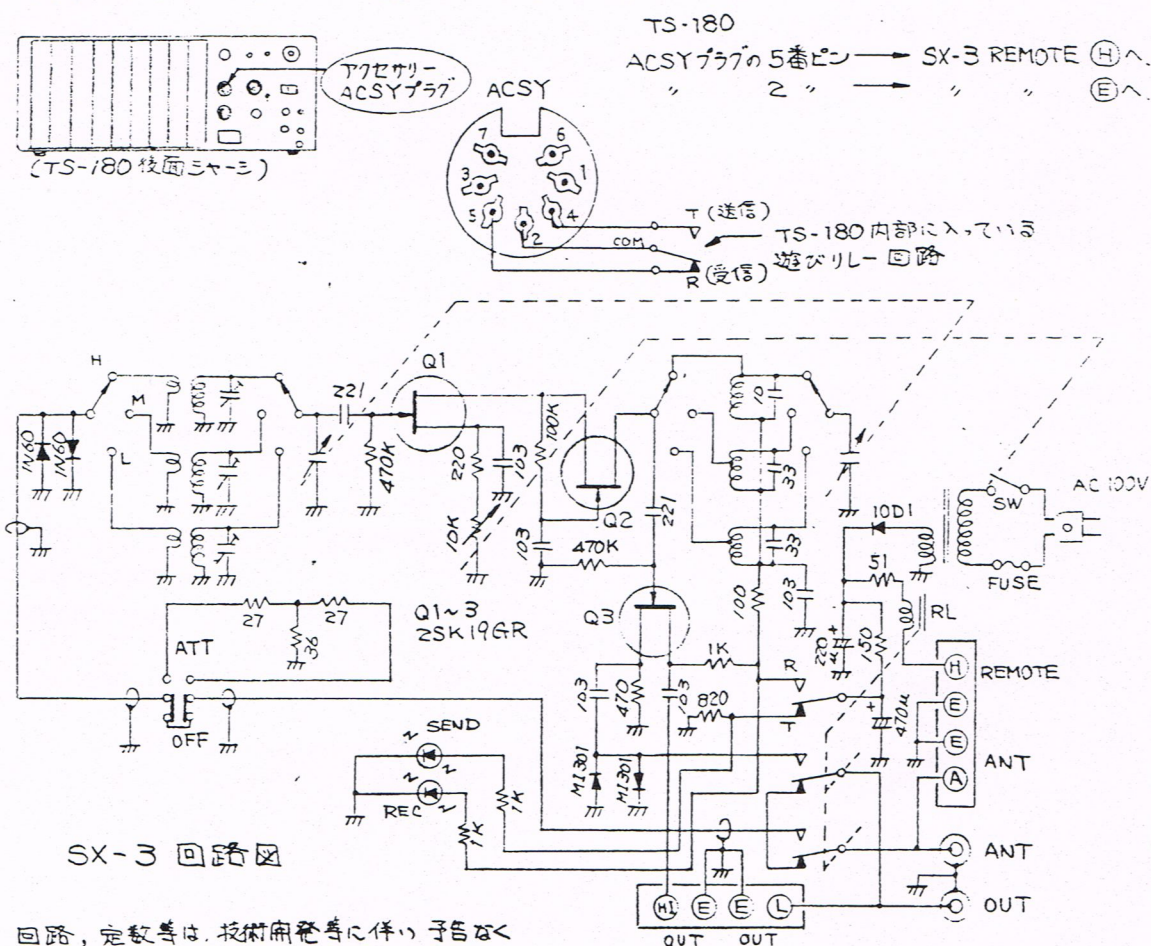
◎ SX-3 送受信切り換えリモート結線について。(アマチュア無線用に使用する場合)

本機は、キャリアコントロール方式でなく リモート方式を採用しております。各々長、短所がありますが、リモート方式は、確実性及び追従性が良いのが最大の特長です。

通常のトランシーバー内には、リニアアンプや受信プリアンプ等の付加装置をコントロールする為にトランシーバーのスタンバイSWと連動しているリレー遊び接点があり、その取り出し口は、後面シャーシ等にアクセサリ(ACC又はACSY, REMOTE)端子としてソケットプラグ等で取り出せるようになっております。

ソケットプラグの何番ピンかは、機種によって違いますので 使われるトランシーバーの回路図等を参照下さい。不明の場合は、各トランシーバーメーカーに向い合わせれば、教えてもらえます。

ここでは一例として TS-180 との接続例を掲げました。(TS-830は、ソケット名がREMOTEになるだけで、ピンNO. はTS-180と全く同じです。)



三ツ市通信株式会社